

[様式 3]

技術開発完了報告（平成19年度）

近畿中国森林管理局 森林技術センター

課 題	自主課題 4 針葉樹人工林を針広混交林へ誘導する施業体系の確立 (モザイク植栽)			開発期間	平成13年度～平成19年度		
開発箇所	用郷山国有林558わ (0.56ha)	担当部署 森林技術センター	共同 研究機関	技術開発 目 標	3(1)	特定区域 内 外	○
開発目的 (数値目標)	針広混交林造成の一手法として、針葉樹と広葉樹のモザイク状の育林を試み、その施業体系を開発する。						
実施経過	平成13年度植樹祭実行箇所 13.4 植樹祭により植え付け 2,600本/ha(植栽間隔2.0m) ヒノキ480本(0.184ha) コナラ780本(0.300ha) 抵抗性赤松 200本(0.076ha) 計1,460本(0.56ha) 植栽配置図については添付資料参考 13～19 下刈り及び林内整備 14.4 地拵え、植栽(詳細は不明) 16～19 生長量調査						
開発成果等	<ul style="list-style-type: none"> ○ モザイク植栽 <ul style="list-style-type: none"> ・ コナラは縦4列、ヒノキは縦3列の団地的モザイク植栽がされているが、比較対照する林分がないことから、生長量の良否については、判定が困難。試験区内外のヒノキ生長について差が見られない(写真4参照) ・ 植栽したコナラは大部分が形質不良で早期に整枝を行わなければ用材としての期待は薄い(天然更新したコナラは生長も早く、形質も良好に生育することから当地方においてはコナラの人工植栽は不要と思われる) ○ 試験区付近のヒノキが6本集団的に枯損していたが、原因は不明。(場所は小尾根であったが、虫害は見られなかった) ○ 植栽したコナラの形質不良、ヒノキについても周辺のヒノキと差違が見られず、モザイク植栽の意義が明らかにならなかったため、本試験は終了する。 						

注) 1 「課題」欄には、技術開発課題名の他に番号を付して記入する。

2 「特定区域内外」欄には、技術開発課題の実施箇所について特定区域内は「○」、特定区域外は「●」、特定区域内外両方は「◎」のいずれか記入すること。

3 「開発目的(数値目標)」欄には、開発目標及びコスト削減等について民間事業者が取り入れているコスト等比較し、出来る限り数値を記入すること。

4 「技術開発目標」欄には、国有林野事業における技術開発基本目標の1～5に該当する番号のうち、該当する目標の番号を記入すること。

5 「開発成果等」欄には、開発成果やその活用状況、普及状況等について記入すること。

6 成果を取りまとめた報告書等については、速やかに提出すること。